

07_自然な挨拶と見守りのある平面計画

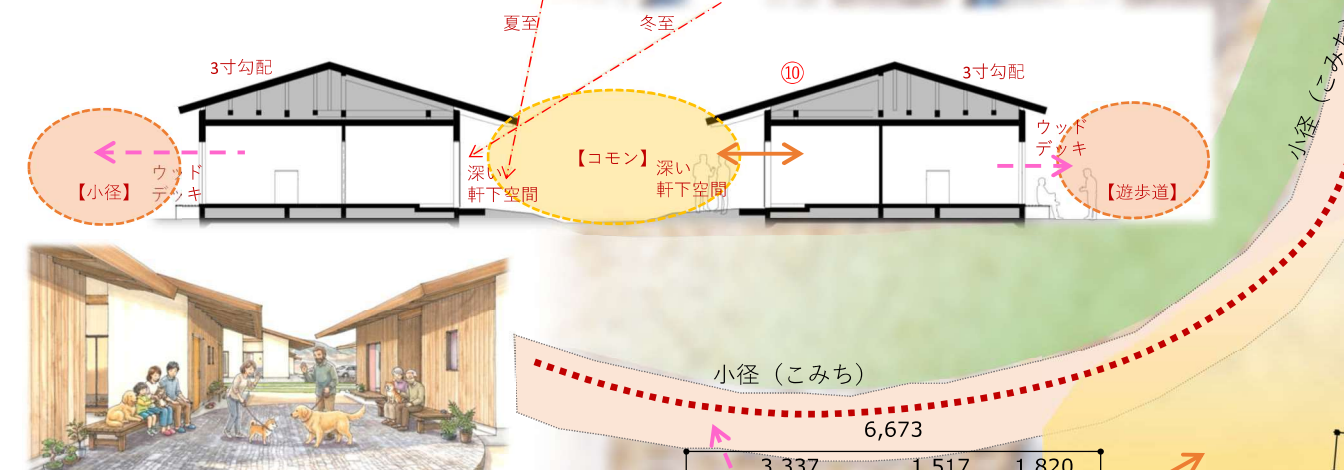
軒下から、村になる。～住宅ではなく、「小さな集落」をつくる～ 4つの小さな集落/小径/コモン/深い軒/世代を超えた見守り

自然に、顔が合う。住戸を機械的に並べるのではなく、4つの小さな集落として配置。若者・子育て世帯と高齢者世帯が向かい合い、「教える」「教わる」「見守り」が自然に生まれる。
小径は、ただの通路ではない。「おはよう」が生まれる、暮らしの道。

- ①コモンに面する玄関・ポーチ：住戸の玄関をコモンへ面するように配置する。出入りのたびに自然に顔を合わせることで顔見知りになり、コミュニティが生まれる。軒の深いポーチにはベンチを設け、ベビーカーや手押し車、自転車を置ける。
- ②インナーテラス：公／私の緩衝地帯として、各住戸に屋根のついたプライベート性の高い「小さな庭」としての屋外空間を確保する。洗面脱衣室に近い位置に配しているので、洗濯物干しスペースとしても利用可能。
- ③引戸の活用：玄関や各居室の出入口は可能な限り引き戸とし、限られたスペースを有効利用する。
- ④自然通風：南北面に掃出し窓、東西面は小窓を設け、風の通りをよくする。
- ⑤収納：玄関は下足収納、各個室には押入やクローゼットを備え付け、収納スペースを確保。
- ⑥隣棟距離の確保：隣棟間隔は強弱をつけ、画一的にならないよう配慮しつつ、隣棟間隔を確保している。
- ⑦水廻りの集約化：水廻りをできるだけコンパクトにまとめ、コストダウンを図る。
- ⑧ウッドデッキ：遊歩道や小径に面した居室にウッドデッキを設け、交流を誘発する縁側空間を作り出す。
- ⑨和室：近年減ってきた和室空間であるが、子供やお年寄りのお昼寝には快適。
- ⑩太陽光発電：共用部（コモンスペースや遊歩道、小径）の外灯の非常用電力のための太陽光発電パネルをCタイプの屋根に設置する。

08_深い軒、招き入れる断面計画

軒下が、家とまちのあいだになる。
雨や日差しを防ぐだけではなく、玄関先のベンチ・ウッドデッキ・コモンへとつながる「もうひとつの居場所」をつります。



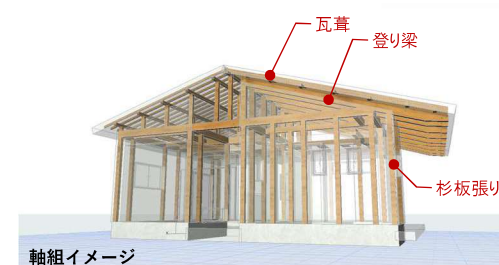
ペット可住宅エリアのコモン



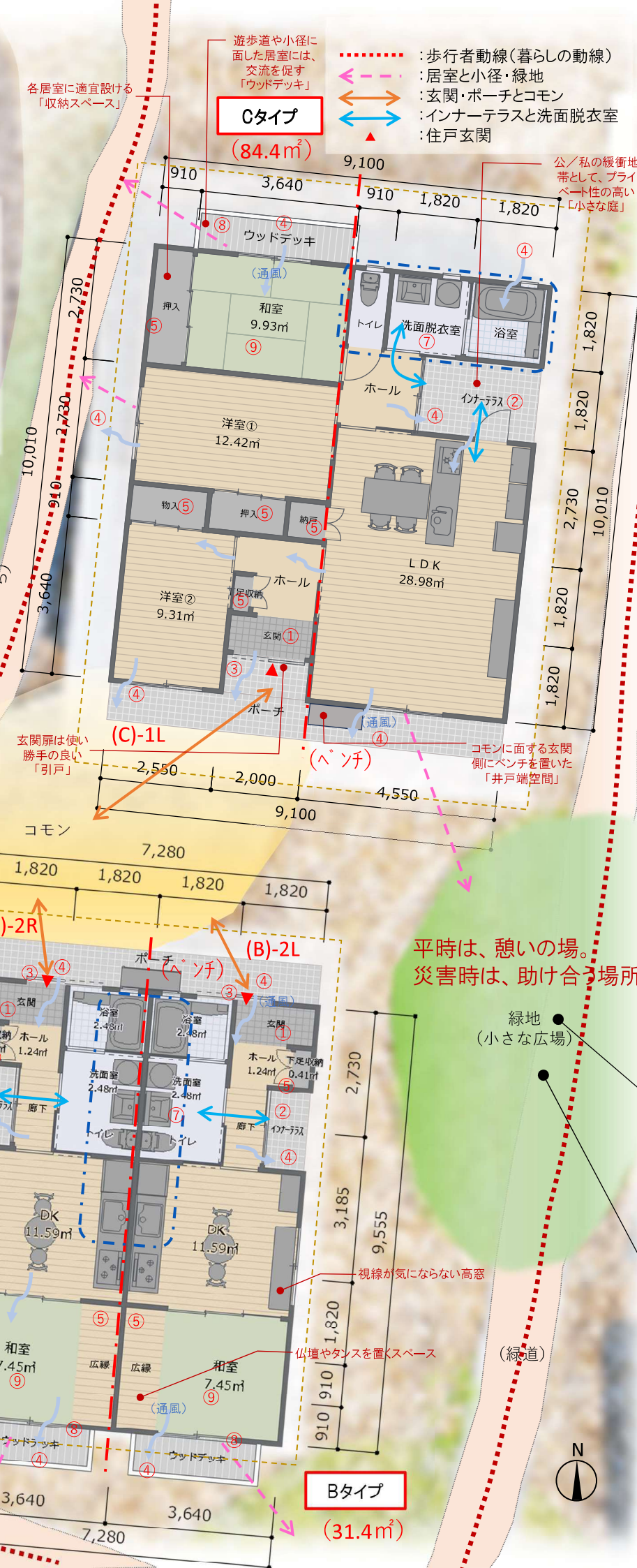
災害時もCタイプ屋根の太陽光発電より共用部照明等に電力供給される

09_一般流通材を用いた軸組工法による木造建築

建てて終わりではなく、地域に技術を残す。維持管理、改修費にかかる技術は広く一般に浸透したもので構成します。戸建形式は発注を小分けにする事ができ、地元の大工や工務店等の対応が可能となります。瓦葺き、杉板張り、左官など多少なりともコストがかかる仕様だが、将来を見据えた地域の人材育成や職人技術継承にも役立ちます。



軸組イメージ



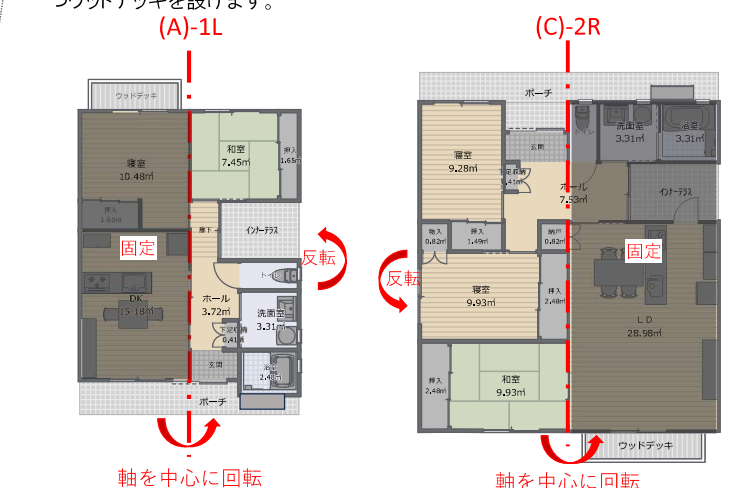
10_県産材の利用・地元の技術の活用

- ・この住宅をつくるのが、地域の仕事になる。
- ・八代のイグサ/人吉・球磨の杉/県内流通材/地元の大工・工務店/瓦・左官業
- ・和室の量は八代のイグサを使った本量を採用。熊本地震で被災した八代地区の復興のシンボルとなる。
- ・南北面の軒の深い部分の壁面は、熊本県産材の杉板張りとする。
- ・構造部材は「くまもと県製材品カタログ」の部材寸法範囲とすることで、県産の一般流通材のみで構成した軸組工法による木造建築とする。
- ・屋根は瓦を用い、山江村の景観に配慮する。



11_様々な配置に対応した柔軟なプラン

リビングは南面となるよう固定させる。軸を中心に、固定しない側を反転または回転させることで、様々な配置計画に応じて対応できます。コモンに面する居室には深い軒下空間を、小径や遊歩道に面する居室には中間領域としての役割をもつウッドデッキを設けます。



緑のまちのマルシェ



小さな広場で災害時の炊き出し
概算工事費：924百万円（税込）